

オブジェクト（テーブル）の定義情報の表示

オブジェクト（プロシージャ）の呼出し名と引数の表示

生成されているオブジェクト名の一覧

1. SQL*Plus にて、オブジェクトの呼出しインターフェイス調査

- ・ テーブル、インデックス、の項目定義の表示
- ・ パッケージ、プロシージャ、ファンクションのインターフェイス（呼出し引数）

DESC <オブジェクト名>

describe <テーブル名>

※ オブジェクトにパッケージ名だけを指定すると、プロシージャ名、ファンクション名の一覧とその引数の一覧が表示される

2. パッケージの呼出し方法調査

呼出しプロシージャ名と受渡し引数の情報提示

DESC <パッケージ名>

(使用例)

DESC FCOPY

PRODEDURE	Argument Name	Type	IN/OUT	Default
FCOPY	SRC_LOCATION	VARCHARA2	IN	unknown
FCOPY	SRC_FILENAME	VARCHARA2	IN	unknown
FCOPY	DEST_LOCATION	VARCHARA2	IN	unknown
FCOPY	DEST_FILENAME	VARCHARA2	IN	unknown
FCOPY	START_LINE	BINARY_INT	IN	unknown
FCOPY	END_LINE	BINARY_INT	IN	unknown
.				
.				
FGETPOS(FUNC)<RETURN VALUE>		BINARY_INT	OUT	unknown
.				
.				
.				
.				

3. 生成されているオブジェクトの一覧表示（データディクショナリ）

```
select table_name FROM user_tables ;
select table_name FROM all_tables ;
select table_name FROM dba_tables ;
```

データディクショナリの指定の仕方 ###_name FROM ***_###s(es)

*** 指定範囲	対象オブジェクト ###	table	index (es)	view	synonym	object
user	自身のスキーマ範囲（定義者）					
all	自身が使用できるオブジェクト範囲					
dba	システム全体					

※ objects には、プロシージャやプログラム名が含まれます

```
select table_name from user_tables ;
select index_name from all_indexes ;
select view_name from dba_views ;
select synonym_name from all_synonyms ;
select object_name from dba_objects ;
```

```
SELECT object_type, object_name, status FROM user_objects
       order by object_type, object_name ;
```

ここで、status が「INVALID」となったものが、エラーが発生しているオブジェクトです

```
select username from dba_users ;
```

OBJECT_TYPE : INDEX, INDEX PARTITION, LOB, PACKAGE, PACKAGE BODY, PROCEDURE, QUEUE, SEQUENCE, SYNONYM, TABLE, TABLE PARTITION, TRIGGER, TYPE, VIEW

4. OEM (Oracle Enterprise Manager) での操作

[スキーマ] タブ→データベース・オブジェクト・セクションの「表」 or 「索引」 or 「ビュー」

スキーマ

オブジェクト

この2つに文字を入れて、 ボタンをクリックすると、検索ができます

出力された結果一覧のオブジェクトの名前部分をクリックすると、データ型、項目の定義サイズを表示できます